

# 62

## 血液ガス分析装置と生化学分析装置において Cl が乖離した Fanconi 症候群の 1 例

◎寺田 茉由<sup>1)</sup>、金沢 直美<sup>1)</sup>、杉本 則子<sup>1)</sup>、宮本 崇三<sup>1)</sup>、森崎 隆裕<sup>1)</sup>、幸福 知己<sup>1)</sup>  
一般財団法人 住友病院 診療技術部 臨床検査技術科<sup>1)</sup>

【はじめに】 Fanconi 症候群とは、近位尿細管の機能障害によってアミノ酸・糖・尿酸・重炭酸・リン等が尿中へ喪失し、電解質異常や筋力低下などの多彩な臨床症状を呈する疾患である。今回、血液ガス分析装置と生化学分析装置で Cl の測定値に乖離があり、診断に苦慮した Fanconi 症候群の 1 例を報告する。また、その乖離要因について検討した。

【症例】 70 歳代女性。20XX 年より多発性骨髄腫(IgG- $\kappa$  型)と 2 型糖尿病で当院通院中のところ、20XX 年 5 月に糖尿病性ケトアシドーシスで緊急入院となった。

### 【測定装置】

血液ガス分析装置:ABL800-FLEX(ラジオメーター)

生化学分析装置:LABOSPECT 008(日立ハイテクノロジーズ)

### 【緊急入院時検査所見】

分析装置	Na	K	Cl	AnGap
ABL800-FLEX	133	4.2	116	7.2
LABOSPECT 008	132	4.2	104	18.3

(Na,K,Cl:mmol/L)

UN:22mg/dL, CRE:1.32mg/dL, eGFR:30.3mL/min/1.73m<sup>2</sup>, UA:2.2mg/dL, Ca:8.7mg/dL, P:2.5mg/dL, TP:7.6g/dL (動脈血液ガス分析 リザーバー酸素10L投与下) pH:7.223, pO<sub>2</sub>:143.0mmHg, pCO<sub>2</sub>:25.2mmHg, HCO<sub>3</sub><sup>-</sup>:9.7mmol/L, Glu:602mg/dL, Lac:1.7mmol/L, BE: -16.2mmol/L (POCT機器) 3-ヒドロキシ酪酸:3100  $\mu$  mol/L

【検討および結果】 2017年1月から2018年7月に静脈血液ガス分析と血清の電解質が同時に依頼された721例を対象として、Clの測定値を比較した。その結果、257例(35.6%)に  $\pm 5$ mmol/L以上の乖離を認め、そのほとんどの例で LABOSPECT 008に比べて ABL800-FLEXが高値となった。また、Clの乖離要因について多重ロジスティック解析を行ったところ、乖離の規定因子はHCO<sub>3</sub><sup>-</sup>であった。

【考察】 本症例では、近位尿細管での再吸収障害による HCO<sub>3</sub><sup>-</sup>の異常低値により Cl が乖離したと考えられる。今後、臨床所見と乖離データとの関係を集積し、臨床へ情報発信していきたい。

【連絡先】 06-6443-1261(内線 6000)